

NO75

H5年9月1日発行

TANPOPOPO



〒869-12 熊本県菊池郡大津町森54-2 ☎096-293-8100
社会福祉法人 三気の会 三気の里

全国大会

理事長 田中 稔

私はどうやら晴れ男の様です。これだけ雨の多かった今年の夏ですが、私が参加した幾つかの行事の日は不思議とそこだけは晴れてくれました。天候で不愉快な思いをした事は無い様です。唯一の例外は全国大会参加の掃路、飛行機が熊本空港に着陸出来ず福岡へ迂回した事です。これは、霧で使用出来ない空港のせいでしょう。

7月31日〜8月1日富山市で第13回自閉症児者親の会(財団法人、日本自閉症協会)の全国大会が開催され、熊本親の会からも子供達も含めて総勢15名が参加しました。この大会は、常陸宮様も4回御臨席頂いており厚生省、文部省、労働省の各省より課長クラスの方々が参加頂く立派な大会です。会場は宿泊というんな催しが一度に出来る大きなホテルでした。これが準備出来るかどうかがいづともどこでも問題になります。

今回、富山県の親の会は準備期間が短かったにもかかわらず皆が全力で協力し合って大会を開催されました。とても良い大会でした。第一日目の分科会は活発でしたし、

その夜の懇親会には賑やかな民謡も登場しました。大会当日の兄弟からの訴えも良い内容でした。実行委員長の話を聞きますとやはり大変な御苦労があった様です。十人前後の一緒に徹夜も辞さないという心意気の親の協力者が必要の様です。大会の主旨をしっかりと作る事も大切な事のように思いました。

次の第14回大会は、平成7年に熊本で開催される事に決定しました。「富山でこれだけ素晴らしい大会を開催頂き、全国の親たちをもてなして頂きました。今度は熊本がこの好意に応える番だと思えます。全力で皆様をお迎える為に準備をしますので、是非熊本へお出で下さい。お待ちしております。」と引き継ぎの挨拶をしてきました。今回、富山へ行ったもう一つの目的は(私が兄貴の様に尊敬している)中田勉先生が作られた「うさか寮」の現状を見せて頂く事でした。中田先生には、三気の里を作る時に大変お世話になり、その後にも相談に乗って頂いています。久しぶりにお会いし、施設を見せて頂いたのですが、先生のお人柄が隅々まで行き届いた内容のある施設に育っていました。

施設は丘陵の中腹にあり、眼下に富山平野、富山湾が一望出来る素晴らしい所にあります。梨畑に囲まれていて、桜の花が散るとすぐに梨の花が、雲海に施設が浮かんでいる様に咲き、素敵な香りに包まれるとの事でした。

中田先生、熊本のおいしい酒を準備してお待ちします。



秋の運動会 せまる!

来る9月26日(日)
三気の里恒例の運動会
を行います。一緒に楽し
みませんか?お待ちしております。

詳しくは担当の田辺、今村、泉まで



療育シリーズ

逃げ出しパニック

園長 土井尚典

園生をプールに連れて行くと、プールのそばまで行った瞬間に一目散に逃げ出して、一定の安心できる距離まで離れてしまうと落ち着く園生がいる。いろいろな手を交えてもどんな説得もだめな場合が多い。いったん逃げ出しが起きると親しい人が近づくとさえ拒否して、人が近づくと、また一定の距離をとれるまで逃げ出してしまふ。このような行動を私は逃げ出しパニックといっている。

この現象が生じ易いのは水関係で多くみられる。プール、海、川や大きな浴槽がある。動物では犬や鶏など、建物では橋や高い所など、他に病院の入り口、診察室、診察台、医師などがある。原因は怖くて不安だからだろう。しかし、怖くて不安な時にそばにいる大人に頼ろうとはせず、とにかく逃げる。そのとき親しい人でさえ近付こうものならまた逃げる。

この行動を引き出した原因は過去に「身の毛のよだつような怖い体験」をしているからであろう。

そばにいる大人からも逃げ出すのは、そばにいた大人の対応も恐怖を大きくした原因を作った場合がある。病院関係は理解できるが、プール等の水関係はそばにいる大人に何度も投げ込まれたりしたケースが多い。事例を調べてみると「どうして?そんなことを?」と情けなくなるような事例が有る。例えば、早く泳げるようになるように、プールに何度も何度も投げ込んだとか、助けを求めた人も抱えて投げ込んだ、逃げ出そうとするとつかまえてまた投げ込んだ等等である。

こういった逃げ出しパニックを改善するには指導者側も本人も大変な努力がいる。特に本人は我慢して山のような勇気を出して、越えて来なければならぬ。指導方法としては、①園生のそばについて、強引だがゆっくりと励まして誘う。②園生から一定の距離をとって励まし、誘いながら、ゆっくりと等で成功した経験が有る。

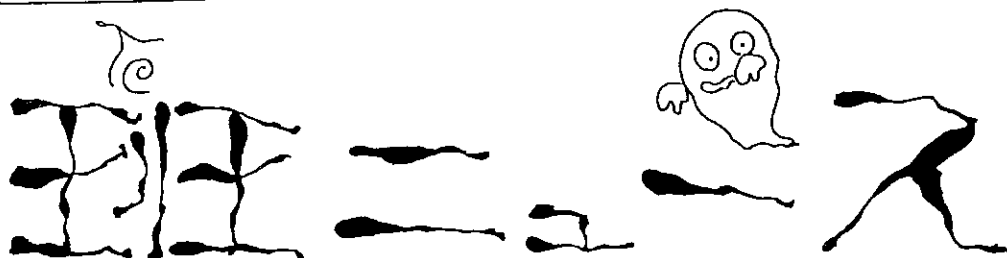
最近の経験では、水泳担当指導員が水泳の集団指導場面で浅いプールでプログラム指導を行い、その後深いプールで水の中に入りプールの縁側を集団で歩き、水の流

れを作り、水の流れの中で水への親しみを作ったケースを見たが、思わず感動してしまった。浅いプールでは①の方法で、深いプールでは②の方法であったと言える。こころの中の深い傷から起きる逃げ出しパニックは、障害が有るなしにかかわらず、同じプロセスを通れば誰にでも起きる傷のように思います。特に、子供や障害者の場合は大人が気がつかないよう

な事でも、大変な恐怖を経験するものです。一度できた恐怖を克服するには本人の大きな努力と勇気が必要です。

逃げ出しパニックは偶然の出来事でも形成されます。そのときそばにいた人の対応も大切です。ましてや指導者は指導という名のものと、間違わないよう心すべきことです。





1班 めざせ!!日本最後の清流

日頃、室内での作業の多い1班には“夏が来たぞー。”という感じがしません。特に今年は異常気象でしょうか、ずっと梅雨のようで、皆うんざりしていたのではないのでしょうか？

そんな皆も夏祭りを終えると、もう頭の中は夏休みのことで一杯のようでした。長〜長い休みを終え、帰って来た皆の顔は、満足、満足といった顔、まだ遊び足りなかったよ〜という顔、真っ黒に日焼けした顔、少々食べ過ぎたのか？青い顔をしている人と様々でした。

しかし、夏休みはもう終わりと、鬼のような職員の声が響き渡り、また三気の里にも活気が戻ってきました。仕分け・ネット折り・パッキンセットの作業等、9月の四国旅行のためにと張り切っている1班の皆です。さあ、がんばるぞー!!

清田

2班 めいわく冷夏

冷夏、文字通り雨にたたられた冷たい夏となってしまった今年の夏ですが、園内の作業でもかなり影響があり、新しい作業棟を作る為今まで使用していた木工作業棟の解体などを作業に入れてもなかなかはかどらず、2班メンバー全員雨の中での作業を行う事もしばしばの毎日でした。

ある日の作業棟解体の様子をちょっとお話しすると、ねじりはちまきで壁板を一所懸命はずす修ちゃん、スレート屋根の上に登り釘をバールと金づちで上手に一本一本抜いていくまこちゃん、はずした板の釘抜きをする希久ちゃん、降ろしたスレートを運ぶ役ではNo.1の一章君、No.2の窓一君、と作業の連係プレーも良く着々とやったものの結局パワーショベルで一発で終わってしまいました。これも雨で長引いたせいでした。

来月はこの冷夏を吹き飛ばしみんなで与論島へお出掛けするぞ!!

田之上

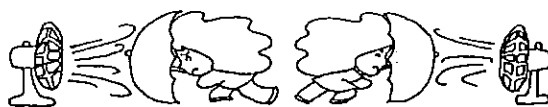
3班 とんだ冷夏

雨、あめ、AME…。天を仰いでみてもどこまでも続いている雨雲に、もううんざりといった感じ。そのせいで3班の畑の野菜や苗物は全滅状態。(技術の未熟さもあるのだが…。)

特にとうもろこしはひどく、日照不足もあって身は入らず、草に負けてしまってとうとう一粒も口に入らなかった始末。毎年、“園のとうもろこしはやわらかくておいしい”からと言って買っていたが、県外の親類の人にまで送っておられた保護者の方にも、泣く泣くお断りした次第だった。今はどうにか生き残ったキュウリとナスビを日毎収穫しては無人販売所に出せているところがせめてもの救いといえるだろう。

過ぎた事を悔やんでも仕方がない、あとはこれから植える白菜やきゃべつ、大根に心血を注ぎ、もうしばらくすると収穫の始まる里芋、さつま芋(3種類植えている。)枝豆等の出来に期待しよう。

木下



入園に際して

柴田博子

親子ベッタリの日々を長く過ごしてしまったり一精が、新たな生活のスタートを始めました。人一倍気弱で不安に陥りやすい一精です。ので、大声で泣く事が多く、成す術もなく行き詰まった日々でした。三気の里の事を初めて知ったのは、数年前の新聞記事からです。「のん気、根気、元氣」の言葉がとても心に残った事を覚えています。お友達と一緒にやっていけるのかどうか、まだまだ心配な毎日ですが、「大変な子ほど燃える」と言われた某先生の言葉を、信じようとします。(いいえ、もう信じきっています。)

「大変だ大変だ。」と、振り回された日々から、今は少しゆとりが持てるようになり、一精がいとおしくなりました。生きていく力をつけるためのいい旅に出しているような、そんな心境です。長く伴走してやれるように、長生きしなくては...と、つくづく思います。



我が家の夏休み

井手上昌子

以前より「何日から何日まで夏休み」とカレンダーに書き込んで楽しみにしていた夏休みです。我が家の夏休みは、両親・妹と三人で自分の仕事の都合をつけて哲也のために休みを取り、相手をするといった夏休みになります。哲也にも予定があるみたいで「何日は〇〇」と私にやたらと書かせては自分の頭に入れ込んでいるのか、その日が来るまでねだりません。その日が来ると朝から何時に連れていってくれるか、うるさく時間を書かされますが、哲也にとっては楽しみにしている日ですので、「イヤグナー」と思っても連れて行きます。哲也が楽しみにしているのが、よしのの家(私の実家)へ行く事と買い物です。今年の夏休みもよしのの家へ5回、買い物へは、一日おきに連れて行きましたので、本人も満足したみたいです。あとはレコードを聴いたり、物書き、本読み、それに食べる事の相変わらずのパターンの夏休みでした。



動作法研修に

ついで

木下昭二

7月28日〜8月3日までの5泊6日間(一日は会場の都合で日帰り)、県身体障害者福祉センターを主会場として(一部希望荘)第10回自閉症児・者のための動作法キャンプに参加しました。(熊本女子大学、山本先生が中心となつてされている。)

第10回という一つの区切りということもあって今回は特別に第1回のスタート時に一緒に始められた大野清先生を東京からお迎えしてのキャンプとなったこともあり、いつもの年にも増して充実したキャンプでした。

私個人としては、マネージャーという大役を任せ付かり、全体の流れを常に見て行動したり、見学の方に対しての食事の手配、お母さん方との諸事の打ち合わせ、身障者センターの方との交渉等からトレーナー・トレーナーの訓練の進み具合をビデオにおさめる記録まで、と多岐にわたったがトレーナーの一名が体調不良による通院をした以外は特に事故もなく終了することができた。今回の訓練の

成果をトレーナーの人達が持続していけるよう月例会等にも参加しながら見守りたいと思う。



後援協会入会

ありがとう

- 平島康之 洲上恒佑 副島真一郎
- 豊田周平 山宮 翔 財賀真理子
- 松岡淳子 前田泰男 大塚敏弘
- 野満知嗣 澤田信也 道上裕佳
- 内田裕己 野田 剛 北里堅二
- 園田昌寛 芹口恵太 松田侑介
- 宮村尚樹 木山和哉 大石研一
- 森 裕三 北原慎也 芳川知洋
- 魚住悠介 高森 毅 相良美貴子
- 松本 了 稲葉正二 樺嶋紀生子
- 堤 純也 魚谷秀文 三小田美代子
- 梅田隆生 山下和昭 佐々木黙雷
- 田辺勝也 岩本裕美 伊佐治 治
- 清田栄一 岡崎範子 門岡啓子
- 元田道雄 若杉浩徳 山宮 翔
- 安藤厚美 井口俊子 水上千恵子
- 福田元之

八月二十七日付け

※敬称略

スポーツ 入会シーズン

「名水公園にて」

今村由紀

7月より運動の時間(毎週金曜日の午後)は水泳となり、第一期(7月2日・9日・16日)が終わり、第二期の7月30日(金)にAグループ16名が泳ぎに行つて来ました。この日は蒸し暑く、プール日中で、Aグループがプールへ行く準備を始めると、他の人達も水着を入れリュックを背負つて玄関へ集まつてしまい、皆の熱い視線を背に、プールへと出発したのです。

ところが、担当者がうっかりしていてプールで泳ぐことが出来ず、目的地を急遽、変更して白水村の明神池名水公園で水遊びとなりました。こども池の方で最初、足を浸けたりしていたのですが、暑さに我慢出来ず服を脱ぎ水着姿になり(プールへ着いてすぐ泳げる様にと水着を着ていたのです。)首まで入つて遊んだり、水をかけあったりと、きれいな池で楽しい一時を過ごしました。

時に、自然の中で水遊びというのも良いですね!

実践キャンプ

坂井省英

第3回三気の里自閉症者のための実践キャンプが今年も、8月8日〜11日の3泊4日の日程で行われました。

新しい出会いを求め、また、職員の技能向上を目的に、3年前より始まったキャンプも、巷では厳しいキャンプとして定着しつつあるように思います。

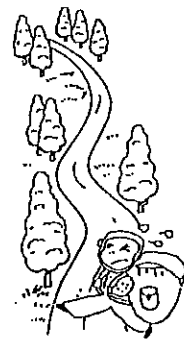
さて、今年のキャンプは、例年同様に、作業(掃除、草取り)を中心としたグループ(トレーニー9名)と、登山を中心としたグループ(トレーニー7名)の2つの計画が実践されました。

かねてより、宿望していた、登山が実現することになりました。登山グループの目標は、楽しく・厳しさをモットーに企画しました。

ところが、当日は台風7号の通過にともなつて、バンガロー宿泊の予定はキャンセルするなど、てんやわんやの日程でしたが、そんな中でも、鞍岳、ミルクロード踏破35kmを実践し、雨の中の行軍でした。

面談中、山での録画を見て、参加者のお母さんが「やっぱり(三

気の里では)行ったんですね。」と。今年も「がまだしもん。」の三気の里を売ってしまいました。

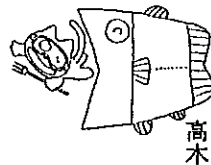


食生活営口農業中

長い夏休み(帰宅訓練期間)も終わり皆の顔を見て何だかほっとする様な気持ち覚えながら、私達(厨房職員)が少ない休みの間、園にいた人達はどんな食事をしていたかなと、ふと気になって日誌を見てみることにしました。毎日のメニューを見てびっくり。照り焼きどんぶりやサケのホイル焼、冷しそうめん、肉じゃが、冷しうどん、ドリアに炊き込みご飯、トンカツ、手巻き寿司、サーモンムニエルにエビフライカレーなどなど、大変豊富なメニューの数々、副菜やデザートもちゃんと付いて栄養的にもしっかり考えてあるなあと感じてしまいました。

皆も、しっかりお手伝いしてくれだみたく、「用意も片付けもみんなでしたから大変じゃなかったよ。」と他の職員の話の聞き、楽しそうな食事の風景が目に見え、浮かなくて、とても嬉しく思いました。

食事作りを手伝ってくれた職員、園生の皆、本当にお世話になりました。



高木

3班ニュース

3班に新メンバー誕生!!長崎よりやって来たその名も「一精くん」。何度か三気の里に遊びに来ていたせいか、園内の雰囲気慣れるのも早かったようです。今は、農耕・園芸作業にと頑張っています。17歳という若さを生かして(うらやましい...)これから頑張ってくれるだろうと期待をしています。

9月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
色ひろちゃん、しんいちろーくん、たいちゃん、えいちゃん誕生日おめでとう			1 2班宿泊レク	2 (与論島)	3 ひろちゃん誕生日(25)	4 シート交換	
5	6	7	8 体重測定	9 誕生会	10	11 帰宅日 保護者会	
12	13	14 しんいちろーくんの誕生日(20)	15 1班宿泊レク 敬老の日	16 (四国)	17	18 シート交換	
19	20	21 たいちゃんの誕生日(20)	22	23	24 たんぼぼ	25	
26 運動会 えいちゃん誕生日(18)	27	28	29	30	31	総宿泊レク 1班:10~30 与論島 2班:15日~17日 四国	



ボランティア通信

残暑お見舞い申し上げます。

この夏、高校生の方がワークキャンプで、三気の里の皆と一緒に汗を流されました。このキャンプでの感想を一部紹介します。

◎みんなとても明るくて、毎日一緒に行動出来るのが嬉しく、本当に毎日が楽しかったです。

◎来園するまでは障害者だから一人では出来ない、してあげると言う気持ちが少ないからあつたと思います。しかし今は、一緒に色々な事を学んでいくという感じで、とても楽しかったです。

◎食事にしても作業にしてもみんな楽しく一つの大きな輪が作られていて、私もこの期間その輪の中に入れたのだと思うと、何だか嬉しくてたまりません。

◎最初はやっぱり偏見を持っていました。でも今思えば、そんな自分が情けないです。なぜなら園生の方は、みんな自分と同じだからです。表現するのは難しいけど心が通じて分かってくれた時の表情は、何にも変えられない喜びです。ワークキャンプに参加された方から、お友達やお知り合いの方へ

とボランティアの輪が広がっていったら...と思います。 今村

(ボランティアありがとう)

☆ワークキャンプ

中村衣里 白石貴裕 浜村大輔

☆ブラッシング指導

森 陸子

☆作業

中村衣里 平川聖子

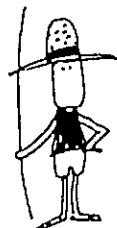
☆作業棟建設

高田一通

☆実践キャンプ

中村幸子 中村衣里

(敬称略)



編集後記

夏季掃宅訓練も済み、遊び疲れが身にします。しかし、そんな中、他の編集員達の意気込みは違います。「カットは?」「読み合わせは?」等元気な声が飛び交い普段よりも早いピッチで編集が進んで行きます。自分自身「ファイト」と励ます私でした。 山中